

横浜 みどリアップ計画




横浜みどリアップ計画[2024-2028](概要版)



横浜みどリアップ計画





暮らしのなかに ふと気づけば緑があるということ

毎日の生活を豊かに、そして未来を担う子どもたちに、
横浜の豊かな緑をつなげていくため
市民の皆様とともに「横浜みどりアップ計画」を進めていきます。



美しく潤いのある
景観



環境教育・農体験



暑さを和らげる



横浜 みどりアップ計画

「横浜みどりアップ計画」は、
「横浜市水と緑の基本計画」の重点的な取組として
策定された5か年計画です。

緑の減少に歯止めをかけ、「緑豊かなまち横浜」を
次世代に継承するため、

「横浜みどり税」を財源の一部に
活用し取組を推進しています。



多様な生き物の
すみか



健康づくり・
レクリエーション



防災・減災



暮らしを支え、豊かにする緑

緑は、都市環境を形成する主要な要素です。

暮らしに潤いを与えるだけでなく、防災・減災に資する機能をはじめとしたグリーンインフラとしての多様な機能を有しています。

そして、これらの機能が発揮されることで、地球温暖化対策やSDGsの達成に寄与し、ネイチャーポジティブ※の実現にもつながっていきます。

防災・減災



雨を蓄えて浸水被害を抑えるほか、オープンスペースとして避難場所や火災延焼防止機能などの防災・減災につながっています。

健康づくり・レクリエーション



散策をはじめ、市民の身近な遊び場、憩いの場、健康づくりの場となっています。

コミュニティ形成

美しく潤いのある景観



快適で美しく潤いのある景観や、自然と歴史に基づく個性と風格のある景観をつくっています。

文化

※ネイチャーポジティブ:「生物多様性の損失を食い止め、反転させ、回復軌道に乗せる」ことを意味し、2022年の国連生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)で設定された新たな国際目標において、その方向性が明確に示されている。

地産地消

街の魅力向上・ 賑わいの創出

環境教育・農体験



自然とふれあう環境が身近にあることで、暮らしを取り巻く環境に対する興味や関心を持つきっかけとなっています。

暑さを和らげる



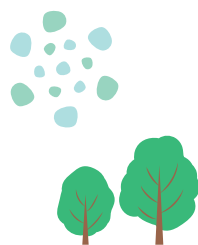
木陰の涼しさや、まとまった緑地が日中の気温上昇を抑えるなど、暑さを和らげる効果があります。

多様な生き物のすみか



樹林地や農地などが、健全に保たれ、まとまりやつながりを持つことで、多様な生き物のすみかとなっています。

緑とともにある 横浜の暮らし



横浜の中心市街地から少し郊外へ行くと、多様な生き物が暮らす豊かな森や、水田・畑地が広がる美しい農景観が保全され、緑が街を包みこんでいます。街なかに目を向けると、樹々や花が美しく彩られ、潤いと賑わい、街並みに風格をもたらしています。横浜には、市民・企業の皆様とともにまもり、つくり、育んできたかけがえのない緑が暮らしの身近な場所にあります。



横浜みどりアップ計画[2024-2028]の方向性

多様なコミュニティの形成や 市民活動の支援の拡充

全市域に広がっている緑や花に関する活動への支援を充実させ、さらに展開させることで、活発な市民活動が行われている姿を目指します。

地域で取り組む緑化活動



市民が緑に関わる取組の さらなる展開

市民が緑にふれ、感じるができるよう、魅力的な空間づくりや体験イベントの開催をはじめ、これまで確保してきた緑のストックの一層の活用を進めます。

緑花による魅力ある空間づくり



農体験



身近な緑の着実な確保と 維持管理による質の向上

引き続き身近な緑の場を保全・創出して良好な育成を進めることで、都市環境を形成する主要な要素である緑のもつ多様な機能を効果的に発揮させていきます。

まちなかでの緑の創出・育成



森の保全と





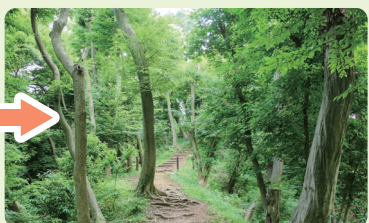
森を支える森づくりボランティア



地産地消にふれる機会



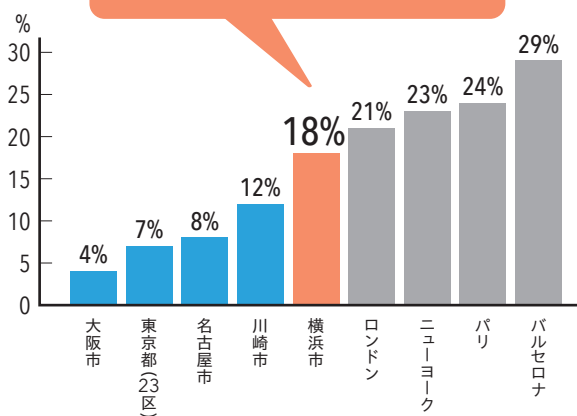
良好な育成



取組の意義や成果、緑がもたらす効果を
 わかりやすく伝え、取組の共感と、
 緑のある暮らしの実感につながる広報を展開。

[都市別]
 樹木エリアの割合比率

緑をまもる取組により、
 横浜には多くの樹木があります。



Googleの温室効果ガス排出量推計ツール
 (EIE: Environmental Insights Explorer) より
<https://insights.sustainability.google/>



森を愉しむ

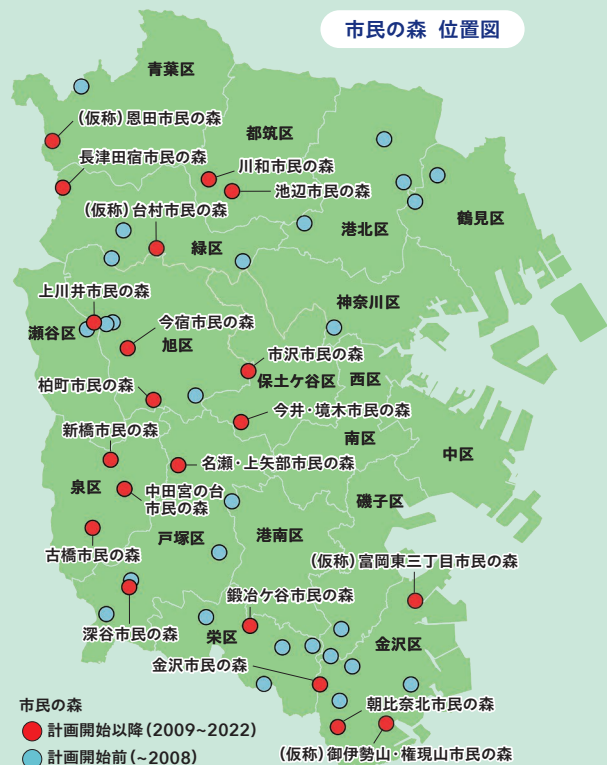
—市民の森を散策—

市内には、散策が楽しめる市民の森が43か所あります。また、市内5か所には「ウェルカムセンター」があり、子どもから大人まで幅広い方々が、横浜の森を知って親しみ、楽しむことができるよう、情報の発信やイベントの開催をしています。横浜の森で自然を感じてみませんか。

※市民の森の整備・維持管理

ココに
横浜※
みどり税

市民の森 位置図



農に親しむ

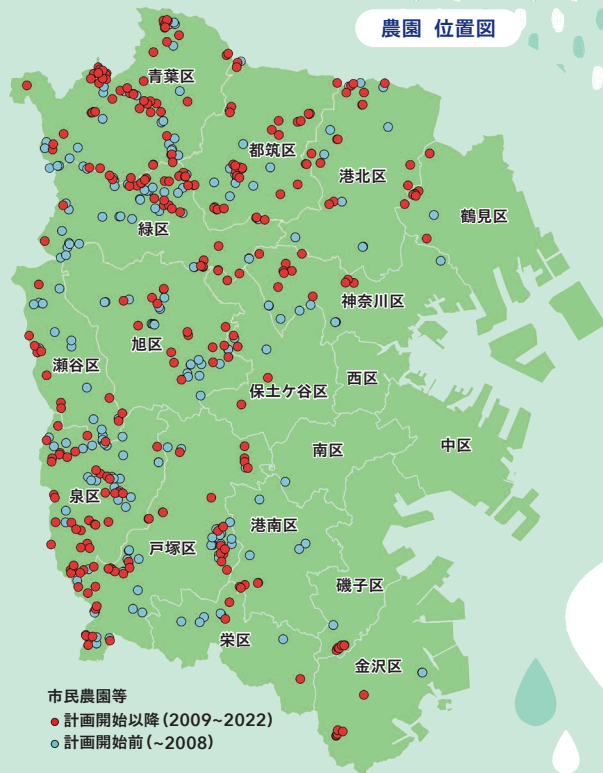
—横浜の農園で収穫体験—

ココに
横浜※
みどり税

実は農業も盛んで、農地面積は県内ナンバー1。暮らしに身近な「農」が横浜の魅力です。市内には、野菜や果物の収穫を気軽に体験できる農園から、本格的な農作業ができる農園まで、多くの農園があります。農体験に参加したり、横浜で採れた旬の野菜や果物などを味わったり、横浜ならではの農の魅力を感じてみませんか。

※収穫体験農園開設支援・農園付公園の整備

農園 位置図



みどりアップ計画による
体験・イベントスポットは
こちら!





街なかで 緑や花を感じる

- 季節を感じる街歩き -

街を歩けば、地域で育まれた緑や花を感じることができます。横浜では、多くの市民力により、地域ならではの緑や花の空間が彩られています。地域で取り組む緑化活動は、人と人とのつながりを生むことも。緑や花に季節を感じながら、街歩きを楽しんでみませんか。
※地域緑のまちづくり事業

ココに
横浜※
みどり税

地域緑のまちづくり 実施地区

(地域主体となった緑化活動)



横浜みどりアップ計画[2024-2028]の体系・5か年事業費

計画の理念

みんなで育む
みどり豊かな美しい街
横浜

5か年の目標

1

緑の減少に歯止めをかけ、
総量の維持を目指します

2

地域特性に応じた
緑の保全・創出・維持管理の
充実により緑の質を高めます

3

市民と緑との関わりを増やし、
緑とともにある
豊かな暮らしを実現します

柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

事業費 303億円 (86億円)

施策1

まとまりのある
樹林地の保全・活用

- 事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り 252億円 (37億円)
- 事業② 良好な森の育成 46億円 (46億円)
- 事業③ 森に関わる多様な機会の創出 5億円 (3億円)

柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

事業費 34億円 (10億円)

施策1

農に親しむ
取組の推進

- 事業① 良好な農景観の保全 11億円 (4億円)
- 事業② 農とふれあう場づくり 20億円 (7億円)

施策2

「横浜農場」の
展開による
地産地消の推進

- 事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進 2億円 (-)
- 事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開 0.7億円 (-)

柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

事業費 77億円 (46億円)

施策1

市民が実感できる
緑や花の創出・育成

- 事業① まちなかでの緑の創出・育成 33億円 (26億円)

施策2

ガーデンシティ横浜
の更なる推進

- 事業② 緑や花があふれる地域づくり 12億円 (6億円)
- 事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成 4億円 (0.8億円)
- 事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成 27億円 (14億円)

効果的な広報の展開

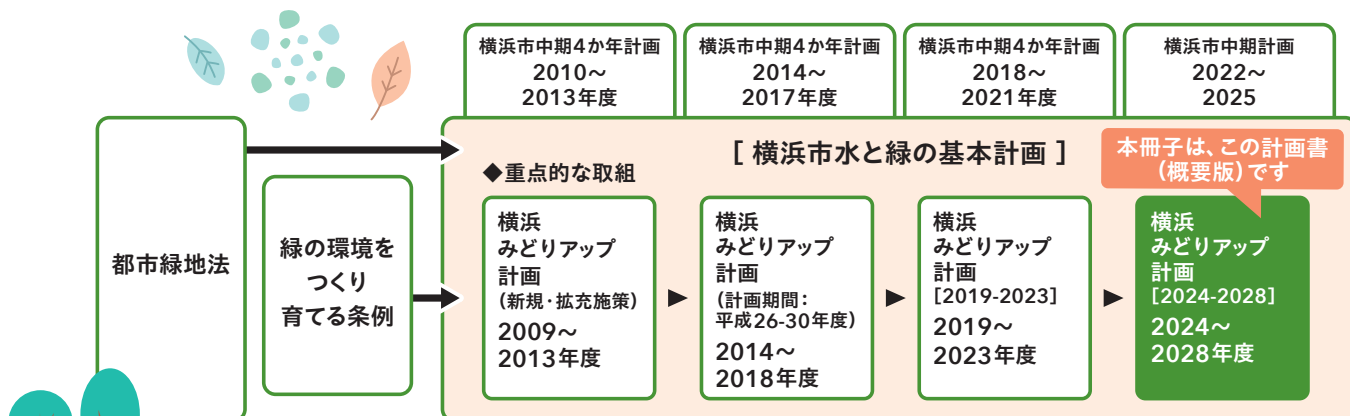
事業費 0.8億円 (-)

- 事業① 市民の理解を広げる広報の展開 0.8億円 (-)

総事業費 415億円 (142億円)

※事業費の()はうちみどり税を記載しています。端数調整により合計値が整合しない場合があります。

計画の位置付け



横浜みどりアップ計画[2024-2028]を進めるにあたって

計画を進めるための財源について

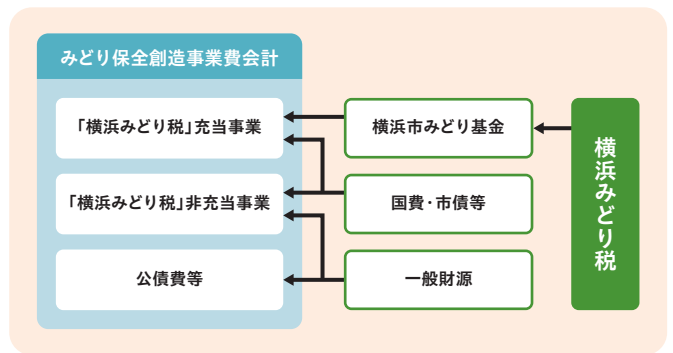
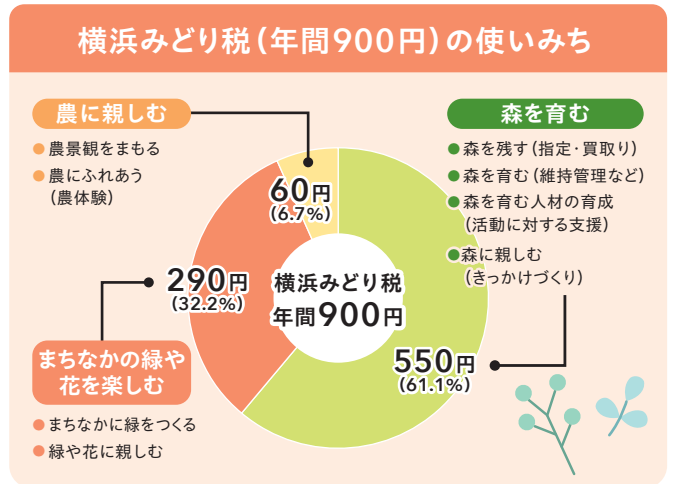
横浜市では、緑の保全・創出に取り組むために必要な安定的な財源を確保するため、2009(H21)年度から市民の皆様にご負担いただいている「横浜みどり税」について、引き続き2024(R6)年度から2028(R10)年度までのご負担をお願いし、この計画の重要な財源の一部として活用していきます。

対象	税率
個人	市民税の均等割に年間900円上乗せ*
法人	市民税の年間均等割額の9%相当額

※所得が一定金額以下で市民税均等割が課税されない方を除きます。

横浜みどり基金と特別会計(みどり保全創造事業費会計)

横浜みどり税は、市民税の超過課税の形でご負担をお願いするものですが、その税収の用途は横浜みどりアップ計画に限定されます。そこで、この税収を管理する基金を設置することにより、他の一般財源から明確に分離するとともに、年度間の財源調整も行います。また、横浜みどり税の用途を明確にするためには、横浜みどり税を充当して実施する事業のみならず、横浜みどりアップ計画全体について、その内容や進捗状況を他の施策と分離して明らかにしていく必要があります。そこで、横浜みどり税非充当事業(既存事業費等)を含めた横浜みどりアップ計画全体を対象とする特別会計により、横浜みどり税の用途を明確にします。



横浜みどりアップ計画市民推進会議

「横浜みどりアップ計画」の推進に向け、市民参加の組織により、みどりアップ計画の評価及び意見・提案、市民の方への情報提供等を行うことを目的として、公募市民や学識経験者などからなる「横浜みどりアップ計画市民推進会議」が2009(H21)年に設置され、2012(H24)年からは

横浜市附属機関設置条例に基づく附属機関に位置付けられています。市民推進会議では、みどりアップ計画の取組の検証や現地調査を行い、評価・提案を報告書にまとめています。



全体会議



現地調査

市民推進会議についてはこちら



お問合せ先 「横浜みどりアップ計画」について:みどり環境局戦略企画課 TEL:045-671-4214 FAX:045-550-4093 mk-mimiplan@city.yokohama.lg.jp
「横浜みどり税」について:財政局税務課 TEL:045-671-2229 FAX:045-641-2775 za-zeimu@city.yokohama.lg.jp

横浜みどりアップ計画[2024-2028]〈冊子〉は、次の場所で閲覧できます。

●各区役所の広報相談係 ●市民情報センター(市庁舎3階) ●みどり環境局ウェブサイト

横浜みどりアップ計画[2024-2028]概要版 令和6年6月発行
編集・発行:みどり環境局戦略企画課

みどりアップ計画
[2024-2028]は
こちら

